

教育だより

教育委員会総務課
庶務広報係
(内線533)

心が通じ合えた9日間 中学生海外派遣レポート

第11回三芳町中学生海外派遣団(生徒12名、引率3名)が8月1日～9日までオーストラリアに渡り、ブリスベンでホームステイや学校見学、シドニーで文化施設見学などを行い、国際親善交流を深めました。

言葉や文化の壁を越えた交流を体験

教育委員会では、国際理解教育の一環として、平成9年度から三芳町中学生海外派遣を実施し、国際化社会に向けて次代を担う子どもたちの育成に努めてきました。

この事業は、異国の歴史や文化などにふれることで、新しい自分の発見と、国際社会の中で活躍できる人材を育成することを目的としています。

三芳町立中学校の3年生12名が参加し、派遣生徒一人ひとりが各自のテーマを決め、積極的に事前研修を積み、海外派遣に臨みまして、

今月号では、派遣生徒たちが交流会やホームステイなどで体験した、たくさんの思い出を紹介します。

心温まるふれあい

生徒たちは、海外派遣事業の中で、たくさんの生きた国際交流を体験しました。

滞在中は各家庭にホームステイをしました。最初のうちはホストファミリーの話し英語がうまく聞きたりませんでした。ホストファミリーの方が気遣って、ゆっくりと簡単な英語に直して話してくれたので、次第に自分から話しかけられるようになったそうです。

しかし同時に英語力の不足を痛感し、もっと英語を勉強したいという意欲が芽生えたようです。ホームステイ先では、ホストシスター

▲アスコット小学校



日程表

- 8月
- 1日(休) 三芳町発・成田空港～ブリスベンへ
- 2日(休) ブリスベン到着、ブリスベ市内見学・ホストファミリーと対面
- 3日(金) ランコーンステイトハイスクールへ、校内見学・授業参加
- 4日(土) 終日ホストファミリーと過ごす
- 5日(日)
- 6日(月) アスコット小学校へ歓迎集会・授業参加さよならパーティー
- 7日(火) ブリスベン発～シドニー到着シドニー市内見学
- 8日(水) シドニー市内見学
- 9日(木) シドニー空港発～成田空港三芳町到着

言葉を越えて気持ちが通じあった海外派遣

三芳町立中学校 日吉一博校長

今回の海外派遣で生徒たちは、言葉で十分に気持ちが伝えられなくても、ホストファミリーと互いに笑顔で接していました。それは心で通じ合っている証拠です。コミュニケーションは言葉以上に、「相手に気持ちを伝えよう、相手を理解しよう」という心が一番大切だということをもっと実感し気づいた様子でした。うらやましいくらいに、たくましく頼もしい生徒たちでした。



▲オペラハウス前にて

海外派遣の流れ

(派遣生徒決定後)

① 結団式・保護者説明会

町長・議長・教育長より激励の言葉をいただきました。その後、派遣団の団長と派遣生徒の三芳町立中学校・瀬畑麻衣花さんが、代表で挨拶をしました。

② 事前学習会

全4回にわたって、オーストラリアでのホームステイや交流会がスムーズにいけるように、学習会を行いました。ホームステイ先での注意点等、基本事項の確認とともに、交流会で行う出し物の練習などを行いました。

③ 出発式

町長・教育長に、団長と生徒代表が、出発に当たっての誓いの言葉を述べました。

④ 海外派遣

ホームステイ&交流会など(次頁日程参照)

⑤ 事後学習会

帰国後2回にわたって事後学習会を行いました。帰国報告会に向けて、現地で撮った写真にコメントなどをつけてパワーポイントで編集した資料を準備しました。また、そ



▲ランコーンステイトハイスクール

れと並行して帰国報告書を作成しました。報告書は冊子にして、他市町村や各校、お世話になったオーストラリアの方たちへも送ります。

⑥ 帰国報告会

事後学習会で編集した資料をスクリーンに映して披露しました。写真で現地での様子を振り返るとともに、オーストラリアでの体験を一人ひとりの思いを込めて発表しました。

さらに、各学校では同じ資料を使って、生徒朝会で今回の体験を伝えたり、現地で撮影した映像を編集したビデオテープを鑑賞したりして、海外派遣に参加していない生徒たちも国際交流について理解を深めています。

帰国後のふれあい

■ 下條秋太郎さん (三芳町立中学校)

オーストラリアの人たちは、みんなゆっくりに通じていて、自分のせかせかしているところを直さなくてほっと思いました。

■ 阿部聖美さん (三芳町立中学校)

最初は、初めての飛行機、日本語が通じないこと、行くところも不安でいっぱいでしたが、とても楽しめました。また行きたいです！

■ 永沼彩乃さん (三芳町立中学校)

オーストラリアの人々はとてもフレンドリーで、本当に楽しい日々を過ごすことができました。

■ 宮崎みかさん (三芳町立中学校)

今回の海外派遣では、オーストラリアの文化や生活について知るとともに、日本の文化を感じることができたのが良かったです。

■ 瀬畑麻衣花さん (三芳町立中学校)

オーストラリアの人々のあたたかみやさしさの中で、独特のゆつたりとした生活リズムを感じることができ、とても充実した海外派遣でした。

■ 野村友貴さん (三芳町立中学校)

あつという間の9日間で、不安だったホームステイは楽しくて一番印象に残りました。良い経験ができたので、機会があればまた行きたいです。

■ 嶋田高弘さん (三芳町立中学校)

オーストラリアでは、自分の英語力の無さを実感しました。しかし、とても勉強になり、同時に楽しい経験ができて良かったです。

■ 田島愛さん (三芳町立中学校)

海外派遣とおして文化の違いを学んだり、交流を深めたりすることができました。9日間で自分が大きく成長できました。

■ 生田翔子さん (三芳町立中学校)

今回の海外派遣で文化の違いを学ぶことができた。ホストファミリーはとっても優しく、たくさんの思い出ができて良かったです。貴重な体験になりました。

■ 千葉紗世子さん (藤久保中学校)

海外派遣とおして、私は「オーストラリアの方は陽気な感じが、私には新鮮で、日本とは違う外国の文化を見て、本当に、経験になりました。

■ 小森谷樹さん (藤久保中学校)

私が海外派遣で感じたのは、言葉や文化が違っても絶対に自分の気持ちは相手に伝わるといことです。特に笑顔は世界最強のツールだと思います。

■ 八巻美優さん (藤久保中学校)

初めてのことで不安でしたがみんな優しく笑顔で乗り越えることができ、幸せな9日間が過ぎました。みんな大好き！

■ 沖崎夫教諭 (庶務担当、藤久保中学校)

この海外派遣では、生徒たちの成長を目の当たりにするとともに、私自身も現地の学校見学や、先方との懇談とお話した感謝の意をのぞかれました。

■ 滝口美穂教諭 (保健担当、三芳町立中学校)

オーストラリアの大自然や温かい人々の出会い。文化や言葉の壁を越え、気持ちが通じ合えた瞬間を生徒たちと一緒に体験できた9日間でした。

図書館だより

中央図書館 ☎258-6464
火～金 10:00～19:00 土、日 10:00～18:00
竹間沢分館 ☎274-1722
火～日 10:00～18:00



10月の予定

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

＜中央図書館＞
ぐりぐらタイム
 (絵本・紙芝居・手遊び・本の紹介)
 第1・3金曜日 11:00～11:15 1・2歳～
 11:20～11:40 3歳～
 第2・4火曜日 16:00～16:30 4～8歳

♥としょかん・くらぶ 一会員制一
 講師の読み聞かせと司書のブックトークで
 本に親しみます。
 10:10～10:55 1・2年生 40人
 11:05～11:50 3・4年生 40人
 12:00～12:45 5・6年生 40人

♣かにかにこそこそ(第3水曜日)
 一大人対象一
 10:00～12:00
 (昔話などを覚えて語る練習会)

＜竹間沢分館＞
ぐりぐらタイム(第4火曜日)
 11:00～11:30 1歳～
◆スイミーおはなし会(第2水曜日)
 16:00～16:30 4歳～小学生



【一般書】夢の江戸歌舞伎 一絵本一
 服部香雄文 一ノ関圭絵
 岩波書店2001年刊
 請求記号 児童913.3
 開つ引きの千次親分は、捕り物が苦手で取扱ばかり。そこで息子の百太郎が、悪人どもを向うに回し、長屋の子どもたちと一緒に事件の解決に乗り出します。子どもが楽しめる痛快な捕り物帳。



【一般書】江戸の構造改革―パックス・トクワナノ時代―
 中村彰彦・山内昌之著
 集英社2004年刊
 請求記号 N5ナカ
 保科正之は浪人の不満、跡継問題を制度改革にて解決しようとした。網吉は現実を見ない理想主義を掲げ、政治が空回りします。江戸に範を垂れ、時代に合った構造改革の必要を説く歴史書です。



【児童書】江戸の百太郎
 那須正幹作 長野ヒナ子画
 岩波書店1986年刊
 請求記号 児童913.3
 開つ引きの千次親分は、捕り物が苦手で取扱ばかり。そこで息子の百太郎が、悪人どもを向うに回し、長屋の子どもたちと一緒に事件の解決に乗り出します。子どもが楽しめる痛快な捕り物帳。



【一般書】江戸しぐさ―暮らしの知恵―
 越川礼子著
 朝日新聞社2007年刊
 請求記号 385コシ
 江戸は異文化のつぼであり、且つ実力主義の競争社会でした。でも品のない自己顕示は嫌われた。能力を発揮しながらも他者を思いやるゆとりをもつマナー「江戸しぐさ」を説いてあります。

健康スポーツライフ

このコーナーでは「スポーツと健康」をテーマに、様々な役立つ情報をみなさんにお届けします。
 問い合わせ スポーツ振興課 ☎258-0371

第5回～歪みのない体へ～

筋肉に「コリ」が生じると、筋繊維は硬くなって縮むため、その筋肉がついている骨は引っ張られ、関節に「歪み」が生じます。
 「歪み」の原因、皆様は何個思い当たりますか？

- 不良姿勢
- 病気(内蔵の機能障害)
- 左右非対称な(偏った)体の使い方
- 噛み合わせ
- 運動不足と過度な運動
- 暴飲暴食
- 怪我
- 事故
- ストレス

これらの原因から、柔軟性の低下や関節の可動域が狭くなることで、筋肉は硬くなり、血行不良を生じます。血行不良により、痛みが発生すると、その部位を動かすことが辛く(億劫に)なり、筋肉が硬くなり、さらに柔軟性が低下・関節可動域が狭小…という、魔のサイクル(悪循環)につながります。
 適度な柔軟性と関節の可動域を保つことが、「歪み」予防・改善のポイントです。
 「歪み」の予防・改善には、ストレッチなどの「柔軟性」向上を目的とした体操(ヨガ・ピラティス・仙人体操等)がおすすめです。



あなたの歪み度は？



【少人数制レッスン】
 少人数制レッスン(定員10名)で一人ひとりにより細やかな指導が可能となりました。
 料金：¥4000/8回 予約方法：電話または直接来館
 予約開始日：10/5金 午前10時～

①レッスン名 ②日程 ③時間 ④担当者 ⑤会場

【1】①ピラティス ②11/2. 9. 16. 23. 30. 12/7. 14. 21
 ③14:30～15:30 ④畑中 ⑤多目的室

【2】①5くら健康体操 ②11/1. 8. 15. 22. 29. 12/6. 13. 20
 ③11:15～12:15 ④溝越 ⑤武道場

※11/17(土)に体育館1周年イベントを行います。
 詳細は11月1日号の「広報みよし」をご覧ください。

三芳の文化財
 第6回
 古く残った文字
 ◆新開遺跡の文字資料

最近ではワープロやパソコンが普及し、筆記用具で文字を書く機会が少なくなったため、ふとした瞬間に「漢字が思い出せない!!」という経験をした方も多いのではないのでしょうか。日本では、古くから漢字と仮名(ひらがな・カタカナ)を文字情報として使用し、たくさんの記録が作成されてきました。

しかし、古代の日本においては、文字が記された資料は何も紙だけではなくありません。墨書土器(ほくしょとぎ)や木簡、石碑、有名なところは稲荷山古墳の金錯銘鉄剣(きんさくめいてつけん)のように、土器や木・石・金属類など様々な物に文字が記されています。

三芳町では、みよし台地区一帯に広がる新開遺跡の発掘において、線刻(せんこく)・焼く前にとがった道具で文字を書く(された須恵器(すえき)が発見されています。新開遺跡は、約千百年前の須恵器を焼いた窯跡や工房跡が確認された遺跡で、



「福」「磨」「上福磨」と書かれた須恵器(すえき)の破片は、窯の不良品を捨てた灰原(はいばら)から発見されました。「福磨」はおそらく人名であり、新開遺跡の地に須恵器窯を築いた有力者の名前ではないかと考えられます。やが崩した字体で書かれた文字は、須恵器を生産する技術と財力を有することを誇示するかのような印象さを受けます。

古代人が残した文字は、古文書に載っていないこの地域の歴史を考える上で、重要なヒントを与えてくれるのです。

←「福」「磨」と書かれた須恵器

教育トピックス

**人間関係を豊にする
コミュニケーション能力の育成**

相手の考えをしつかりと気持ちよく聞くことのできるコミュニケーションづくりの技能を身につけさせる様々な実践に取り組んできました。

今年度は、これまでの成果を生かし、特に国語科の「聞く・話す」項目を重点に、国語科の目標である、人と人との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら、言語を通して適切に表現したり、理解したりする「伝え合う力」の育成に取り組んでいます。また、授業前に特設の時間を設定し、音読や暗誦等に取り組む、表現力の向上を図っています。

竹間沢小学校のこれまでの取組は、8月20日(月)所沢市民文化センター・所沢市役所で開催された「教育セミナー(関東2007 in所沢)」において、発表・展示されました。



竹間沢小学校では、平成15年度より「人間関係づくり」を学校課題に据え、自分の考えを相手に伝え、